

平成29年度 まちづくり懇談会

泉野地区会場の要旨

平成29年10月19日（木） 19:00～20:30

泉野地区コミュニティセンター 参加者 71名

市長：改めまして皆さんこんばんは。冷たい雨の毎日が続いております。今年はずでにインフルエンザが流行っているようでございますし、ワクチンが少ないということでございますのでうがい・手洗い等、衛生管理・体調管理に十分ご注意くださいと思います。本日はそんな寒い中、足元の悪い中、またお疲れのところ大勢の皆様にもまちづくり懇談会にご出席いただきましてありがとうございます。昨年のもち懇は「大いに語ろう、茅野市の未来予想図」ということでいろんなご意見をいただきました。それをベースに今第5次茅野市総合計画を策定中でございます。今日はその第5次総合計画のポイントと言いますか、視点等につきましてお話をさせていただき、意見交換をしてまいりたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。また後段には「泉野地区の魅力とその活かし方」というテーマで、地域の魅力についてもご意見いただきたいと思ひます。過日の槻木の廻り舞台「秋の会」は本当に盛大に開催されて、おめでとうござひます。私も前段は観させていただきます。肝心な子供達の発表を観ることができずに本当に残念でしたけれども、これは本当に泉野の魅力であり、その良い活かし方をされているなど常々思っております。なんと申ひしても子供達がしっかりと自分達の活動・生活の中にこの回り舞台を取り入れている。またそこで発表したりすることによって、いろんなことを彼らなりに考えて表現していると思ひます。そのことが間違いなく「たくましく、やさしい」そんな人間を育てていく、改めて感謝しているところでございます。そんなことで、今日はいろんな忌憚のない意見交換ができれば大変嬉しく思ひます。どうぞよろしくお願ひします。

企画部長：続きます、このまちづくり懇談会は、泉野地区コミュニティ運営協議会との共催で実施をしております。それでは泉野地区コミュニティ運営協議会会長、小澤喜一様よりご挨拶を頂戴いたします。

泉野地区コミュニティ運営協議会会長：こんばんは。皆様にはお忙しいところまちづくり懇談会にご参加いただきましてありがとうございます。また柳平市長はじめ関係各所の皆様、大変ご苦労様です。よろしくお願ひいたします。今宵は短い時間だとは思ひますが、平日頃感じていること、そんなことを意見交換しながら有意義な会議にしていただければ非常に嬉しいと思ひます。また遅くなりましたけれども、本年9月に前任の佐藤氏より引き継ぎ、泉野コミュニティ運営協議会の会長となりました小澤と申ひます。今後ともよろしくお願ひします。

ーテーマと資料の説明 内容は米沢地区を参照ー

市長：5つの切り口で提案させていただきました。この5つについて順次意見交換をしていきたいと思いますけれども、進んでいく中で戻って前のテーマで述べられても構いませんので、何なりとよろしく願いいたします。まず1点目の「地域やあらゆる世代で支え合う仕組みづくり」も茅野市においては福祉のまちづくりということで福祉推進委員さんとか民生児童委員さんとか、いろんな皆さんが支え合いの中で活動をしていただいております。敬意を表するところでございますけれども、先ほども言いました公民館を活用した居場所づくり、この考えについて「そうは言ったって」という部分も実際たくさんあります。そんなことについて何か皆さん感じて私の説明を聞いたり、普段公民館をこんなふうにしたら良いんじゃないかなということをお持ちでしたら、ご発言いただきたいと思います。

市民：たまたま私も高齢者の仲間になって何年か経つわけですがけれども、ちょっと世代の上の方から独り暮らしだとか、高齢者だけの世帯になったお宅、毎日じっとこたつを押さえてテレビを観ているとこのまま年老いてしまうのかとか、寝たきりになるのではないかといった生活の不安やら健康の不安、そういったことを耳にしました。どこか居場所があるといいなということが伝わってきました。たまたま私の家の前には教員住宅が空いているわけです。もう空いで6年目になります。もったいなくて。单身の方の住宅も学校のすぐ前にありますし、家族用も2つ空いたままなんです。そこを是非使わせてもらって高齢者の居場所として、また世代間の交流のできる場所として、何か張り合いのある活動ができるといいなということで、市の方にもお願いをしにいたり区としてもお願いをしにいたりしたんですけれども、いろいろ環境的な区分もあったりして、そこではすぐには返事ができないということでした。それじゃあどこか居場所を確保すれば良いのではないかと、ということで公民館を利用して10月27日に第1回目の居場所としての活動をしようとしているところです。私はいろいろと思うんですけど、市からの施策ということで「こうやったらどうか」と上から下りてくるものも大事だけれども、やはりそこに住んでいる人々のニーズを吸い取ってみんなで協働してやっていくことの力を育てていくことも大事だと思っています。たまたまそういうことを、今この課題に沿ったような動きがあるのであっちからもこっちからも言えと言われて言いましたけれども、そんな状況があります。

市長：素晴らしいですね。10月いつからでしたっけ？

市民：27日に第1回目です。ネーミングも良くて「ほっこらサロン」と言うんです。今のところは下槻木の高齢者が中心になると思うんですけど、いずれは子供達の活力を貰い合いながら、自分達の生きてきて得たものを子供達に伝えていこうというようなそんな文化的な活動だとか、技術的なものも伝わってきているものを伝えていきたいという想いをみんな持っております。

市長：市もしっかりと応援・支援をしていきたいと思います。27日というと金曜日ですよ。何時からですか？

市民：午後1時半からです。

市長：ちょっと自分の日程が分かっていないものですから。もし空いていたら是非顔を出したいなと思います。これは定期的に開かれるのですか。

市民：月に1回、水曜日の午後。今のところはそんな日程で。会費は200円です。

市長：いきなり毎日というわけにはいかないでしょうけど、そういった取組の中から次の展開が見えてきたら良いなと思います。それと前段にあった教員住宅、これも実際使われなかったらもったいないですよ。何か良い形で使えればと思っています。市でも玉川では移住者の体験住宅ということで1～2ヶ月そこで実際に住んでもらって、茅野市で暮らすとはどういうことかと体験してもらうのに活用しています。これも先まで埋まっていまして結構人気が高いんですよ。そんなこととか、いろんなアイデアも出していますけれども。これは校庭の向こうにあるところですよ。

市民：そこもそうです。それから河原の湯の横にあるのも2棟空いています。

市長：もったいないですよ。教育長、何かありますか。

教育長：ありがとうございます。空いた教員住宅を常時使っていくのが一番素晴らしいと思います。実際、今は教員住宅を使っておりません。諏訪の教員住宅をめぐる状態をお話しますと、諏訪の教職員の場合約半数が他の郡から来ています。異動が決まって教員住宅に入居するか決まるのが3月20日前後という現実を持っています。ところがいざ蓋を開けてみると、ちょっと離れたきれいなアパートに住みたいという方が実際かなり多くいます。その中で使っていないということで無駄だし、有効活用できないかということは市長さんが言われたとおりです。具体的にどうしていくか、建物の安全は確保できるかですが、様々な問題を解決して早急に対応していきたいです。あまりに古くなった建物は撤去となると思いますけど、具体的には部長もいますので。

市長：まだ具体例は出ていないでしょうから。特にあれば、どうですか。

教育長：今年度の夏あたりから具体的に話題になってきていますので、もう少しお待ちください。前向きに考えていきたいと思っています。

市民：是非、よろしく申し上げます。

市長：地元からも先ほどおっしゃったように「こんなふうにするのがいいよ」というのは、私達が考えるのとはだいぶ違うと思いますので、ご意見いただければと思います。ありがとうございました。他にご発言ございますか。

ひと通り進めまして、また全体でご意見いただきたいと思います。2点目の「まちの活力の向上を図る仕組みづくり」ということで産業の活性化という観点、雇用の場の創出という観点ですけど、特に諏訪東京理科大学これを上手く使っていきたいと思っています。その辺も含めましてご意見ございましたらどうぞ。

この「観光を切り口にしたまちづくり」ということで、今県外、神奈川県が一番多いんですけど首都圏の方からまちづくり協力隊ということで、この間3名委嘱しましたので13名の専門的な知識を持った若者達が来て、またその専門性を活かしてどんなことができるかということに取り組んでいます。この泉野地区にもいろいろとおじゃまをしているんじゃないかなと思います。そういった中で観光地でなくても観光ができる、そこにお客さんが来てくれる。例えば家庭菜園的な野菜作りをしているおばあちゃんがいる、そのおばあちゃんが面白い話をしながらガイドしてくれる、そこでお小遣いぐらい稼げる。そんな仕組みも考えている所でございます。是非、泉野地区の良い意味での素朴な環境を観光資源として発掘していきたいと思っていますので、ご協力をお願いしたいと思います。

「理科大をもっとこうしたら良いのでは」とかございせんか。この諏訪東京理科大は今まであまりにも行政も真剣に関わってこなかったかなと反省しています。地元の企業にしても、もっと踏み込んだ形で勉強していく、今そんな仕組みを作っています。おかげで公立化するということで授業料も半分ぐらいになります。150万ぐらいかかったのが80万ぐらいで。これは非常に親御さんにとってもありがたいことになりますし、おかげ様で来年の入試の予測ですけど今までの3倍ぐらいの受験者があるのではないかと。これも今まで以上に意欲のある学生達が受験を目指していると、予備校からの調査ですけどそんな報告もいただいています。せっかく来てくれた意欲ある若者達をなんとしても地元にも一人でも多く就職してもらって、地域の活動に取り組んでもらえればと。そのために市としましても学生達にとって良い意味で面白いまちにしていかななくては行けないと、模索をして動いているところでございます。

市民：理科大のある所なんですけど、下古田のところから鬼場へ行く道がすごく狭くて、泉野の方もずいぶん利用しているから分かると思いますけど、今の話を聞くと学生さんが今よりも増えるということですか。

市長：今年は違いますが、それまでは定員割れをしていました。300名定員で定員はこれからも変わらないんですけど、それまでは250名とかで。それが今年は320名ぐらい入ってくる。

これからそういったペースで入ってきますので、定員自体は増えませんが、実質の学生数は増えてくると思います。

市民：わかりました。今バスはやっていますが、どうしても学生さんが歩いていると夕方から夜にかけてとか雨の日だと本当に怖いんですよ。それでできれば学生さん達に歩いては駄目だというような形にまで持っていけるように、歩ける所を作ってあげるとか上手に誘導してあげるとかしてもらわないと、学生さんが来てもらうのは嬉しいのだけれども地元の人達の負担が大きくなるような気がするので、そのこととも考えられるようなことがあれば是非お願いします。

市長：豊平地区のまち懇でも出まして、どういう対応ができるのか、道路確保ができれば良いのですが段差になっていますので難しい部分もあります。どういう形が良いのか検討してまいりたいと思います。ありがとうございました。

それではひと通り進めさせていただきます。3点目は教育の仕組みづくりでございます。これにつきましてはまずは教育長に、現在の状況は小学校・中学校にお話をいただきたいと思っております。簡潔にお願いします。

教育長：この間は槻木の廻り舞台の「秋の会」にお招きいただきましてありがとうございました。本当に地域のお力で地域の人々、地域の今までの伝統の文化によって小学生も中学生も保育園児も育てていただいていると実感しました。例えば同じことを小学校の学校の中だけでやったとしたら、本当に子供が育っているかどうか。廻り舞台で地域の方と一緒に囲まれて行くから子供が育っていると思います。今小中一貫教育、幼保小連携教育、それから地域と共に学校づくりをしていくということを進めているわけですが、泉野にはその原型があると思います。本当にありがたいことです。これが一つの原型として考えていきたいと思っております。小中一貫教育という大きな仕組みの土台にICT教育や英語教育を始めました。具体的にどんな様子かということをお校長と教職員がいますので簡単に発表してもらいたいと思っております。

泉野小学校長：まず小中一貫教育でまず教職員の方ですが、育てたい姿を共有して3校で授業のやり方、子供達の成長について相談をし、授業を見合って研修を進めています。子供達の交流ですが、入学式のときにメッセージをいただいたり、中学生が読み聞かせにきたり、文化祭に行くと校内を案内してくれたり、初めて中学生の職場体験を受け入れるということもありました。そういったことで子供達の交流も進み、刺激があるな、それぞれ学校に行くことが自然だなと感じているところです。英語教育ですが今年あき先生に来ていただき、日常の中に英語のシャワーを浴びるというような、そんなことができているかと思っています。運動会でも英語のアナウンスしていただいたり、音楽会にもアナウンスをしていただいたり、子供達は英語の歌に今年挑戦します。1曲やります。そんなことで日常生活の中で担任もあき先生から教え

ていただいて、指導案を書いて授業を担当主導でやっております。ICT教育ですが、7月にテレビ会議システムの実験を3校で行いました。どんなことをやろうかなということで考えたわけですが、中学の英語の先生に英語の出前授業をやっていただきました。出前と言うと普通は学校へ来てやってもらうわけですが、3校で授業を結んでやるということで、玉川小学校の6年生の授業の様子をテレビ画面で観ることができる。中学の先生の英語指導も受けられるということで、大変便利だったなと感じています。縄文科については担当がおります。

泉野小学校教諭：縄文科のお話がありましたが、本校でやっている各学年の様子を思い出したいと思います。自分が担任している1年生では自然と触れ合うということで、小屋場坂に生えている草とか土に親しんで体験するというので、その中でも縄文の人達が食べていた野草を食べてみたりとかどんぐりを拾ったりしています。縄文を知る上で市の方から配っていただいた「縄文かるた」が大変役立っています。かるたで遊びながら勉強しているところがあります。子供達が一番驚いていたのが、縄文時代は平和で1万年近くも続いていたということで、自分達はすぐにけんかしてしまうのに、1万年も平和なのはどうしてだろうとか、その秘密を勉強しています。2年生は考古館の方から教えにきてくださることもありまして、土笛づくりをやったりとか縄文の人達が着ている服を実際に着てみたりしています。3年生では社会科の地図を勉強しているところなので、遺跡はどんなところにあるんだろうと考えています。4年生は実際に縄文土器を作るということで、考古館の方から指導に来ていただいて、この間の縄文フェスティバルの野焼きの体験にも参加させていただいて、実際に縄文人になったつもりでその楽しさを体験しました。5年生は去年担任の方が住居作りの経験があるので、ドーム作りに興味を持っていっているところです。6年生は縄文土器というのは本当に実際に使えるのかということが社会の歴史でやりますので、実際に縄文土器が使えるか疑問を持つようになってそんなことをやってみたいと挑戦しています。

東部中学校長：取り組んでいる内容についてはほぼ（小学校）校長先生に言ってもらいましたので、私の方では事ある毎に小学校の方におじゃまさせていただいているおかげで、去年の6年生も今年の6年生もだいぶ私の顔を知っていてくれて、学校に来ると先生と声をかけてくれることが嬉しく思います。そんなこともささやかですが小中一貫の良さかなと思います。子供の様子については担任の方から話してもらおうと思います。

東部中学校教諭：こんばんは。2年生の様子は先程お話されましたように、職場体験の方で泉野小学校で体験をした生徒もいまして、その中で自分達が育ってきた学校で実際に自分が読書を子供達の前でするとかの経験を通して、自分達の生きてきた自然の中で人と繋がりを持つということに価値を感じている感想もありました。先日行われた廻り舞台の方にも吹奏楽部も参加していたのですが、その中で日記にもゴミ拾いを行っていたときからここで舞台をやりたいという思いが地域の方にもあって、その思いと一緒に廻り舞台で演奏でき、こういう機会に

参加できたことが良かったと思います、という感想も書かれていて人と人との繋がりを小中一貫というものを通して、また地域との関わりの中で子供達は実感をしています。

市長：ありがとうございました。先生の話も加えまして教育の仕組みづくりについて何かご意見ございましたらどうぞ。

先ほどからありますけど、廻り舞台での活動を見ていると「これだよ」と思いますよね。本当に涙が出るぐらい嬉しくなるわけですけど。先ほどありました英語教育、台湾から今年あき先生という女性の先生に来ていただいています。非常にパワフルな先生で、こういうふうに教えなくては駄目なんだと私も授業を見させてもらって本当に思いました。自分が中学、高校、私は大学までやってきましたけど、あの膨大な費やした時間は何だったんだと思うぐらい、こういうふうに教えるんだと。是非皆さん時間がありましたら、あき先生がいつ来るか校長先生に聞いてもらって授業を見てください。英語という範疇に捉われずに、物事を教えるってこういう教え方があるんだと実感すると思います。そういう意味でも英語に捉われずに見る価値があるなど、是非ご覧いただければと思います。ご発言ございますか。

市民：前回の懇談会のときにタブレットを使った教育のことが話題になったと思いますけど、その後どういうふうに変わっているか、今後どうなるか教えてください。

教育長：今年度はICT教育の一貫として11月に市内の全小中学校にテレビ会議システムを買入れします。それから大型黒板を買入れします。来年度一人1台というわけにはいきませんがタブレットを導入してという計画があります。来年度以降からの計画というのが現在出来上がっていますので、私達の方では市民の方々のご意見を聞いて計画を大至急確定しなくてはいけません。来年度のタブレット導入は確定しています。その中でタブレットを使いこなすのは割と簡単にできるのですが、プログラミング教育の分野で学習指導要領もまだはっきりとしていない所もありますが、来年度から本格的に入りたいと思います。

市長：是非、市民の皆さんでIT系に長けた方がいらっしゃいましたら、お手伝いをしていただければ校長先生はありがたいですよね。是非、よろしくお願いします。

もう1点いきたいと思います。「安全・安心・豊かな暮らしを支える社会基盤づくり」ということで、インフラであったり小中学校の箱物であったり、これの取組をしていかななくてはいけないわけですけど、先程一例を述べさせていただきましたが、人口減少・財政が緊迫していく中で公共施設をどういうふうによく活用していくか、そんな計画も作っています。また皆さんにお示しするときに来るかと思えますけれども、そういった公共施設の管理計画。それを見せる中で長寿命化等の便利なインフラ整備、箱物整備をしていきたいと思っています。ご発言どうぞ。

茅野市も広いですし、コミュニティ毎の小中学校や保育園を大事にしてきたまちでございます。

そうしますとインフラは抜きにしても、公共施設だけの修理・修繕を含めて年間できれば20何億と投資していかなくてはいけないんですけど、実際は11億ぐらいと半分ぐらいしかできていない状況です。そういった中でこれから10年、20年やっていかなくてはならない。本当はスパンと新しい学校にできれば良いのですが、それが不可能な時代になっています。そんなことも頭の中に入れていただければありがたいなと思います。

もう1点先にいきます。5点目の「あらゆる主体による協働のまちづくり」ということでパートナーシップのまちづくりも含めまして、これも欠かせないまちづくりのテクニックになってきていると思います。ゆいわーく茅野がオープンしてもうすぐ1年になります。イベントが11月12日（日）に1周年の記念イベントを予定しております。まだゆいわーくに行ったことのない方はこの機会に足を運んでいただきたいと思います。派手ではないですが非常に使いやすい、手前味噌ながら良い建物だなと思います。1階に食事ができるところもありますし、もう寒くなってきましたから駄目ですけど、この秋に永明小学校の皆さんとの共同で木のテラスを作りました。来年十分に活用していただけるかと思いますが、テーブルがあってパラソルを立ててやると結構良い雰囲気だと思っています。そんな所も見学していただければと思います。協働のまちづくりにつきまして、ご意見ございましたらどうぞ。

冒頭に「公民館を使って」というのも正に一つの協働の仕組みかなと思います。いろんなパターン、いろんな場所、やり方でこの協働を進めていきたいと思っています。

市民：今、市長さんから言われましたけれども、地域的にゆいわーく茅野には泉野の場合は遠すぎて行きづらいです。形は知っていますけど、なかなか活用というのは地域的にちょっと。私達みたいに団体に属していると使うのですが、一般の方が行って使うのは、使い方さえも知らない人が多いと思います。これが泉野の現状じゃないかなと思います。

市長：なかなか下に降りていくことは難しいかと思いますが、それでも何だかんだで下に行く用事もあるかと思いますが、特別あそこで何かをやることではなくても、ちょっとぷらっと寄ってもらって昼飯を軽く食べて、そうするとこんな人達がこんなことやっているんだと。そこを使わなくても泉野地区で何かをやる時のヒントになったりと思いますし、今はネットワークづくりもしていますので、今度泉野のコミュニティまつりをやる時に、そういった団体の人達にお手伝いを頼んだりといった協働もできるかと思っています。是非、折を見て足を運んでいただければと思います。

この1から5番まで、あるいはそれに限らずこれから茅野市のまちづくりをしていく10年間、今時代が早いですから5年で見直しということも考えています。そういった中でお感じになっていることがありましたらどうぞ。

市民：先日の「秋の会」では皆さんに大変協力をしていただきましてありがとうございました。一点お伺いしたいことがあるのですが、河原温泉の上に柳川公園があるんですが、そのこれ

からの整備計画があるかお聞きしたいです。

市長：今そこは河原の湯と一体的に管理してもらっていて、総合サービスさんに民間業をお願いしている所ですけど、本格的に公園の整備となると地域福祉の範疇になってくるということとして、今具体的に計画していないのですが、前は自転車で走れるような公園だったかなと思います。これも先ほどの教員住宅と同じ考えですけど、有効に活用されていなければもったいない。地元として何かこんな風に使えたらというようなアイデアは何かあるんですか。

市民：個人的な意見なんですけど、今どうも見栄えの良くないような木がいっぱい立って、ほとんど利用する人もいないような状況です。毎年一回、あれを全部撤去していただいて、桜かつツジを植えて「ここへ行けば楽しい」という所にする計画をしていただければ良いかなと思います。それから柳川の護岸についても木はだいぶ植えられるんじゃないかなと思います。その辺も計画していったらどうかなと思います。

市長：ありがとうございます。今後は是非、運協の環境部会みたいな所も含めて、「こんなふうにしたら地域区民がもっと活用する」というような取組をしていかなければいけないのかなと思います。担当課も含める中で、まずはあそこをどうしようという議論をテーブルの上に乗けていただければと思います。運協の会長さんにも骨折りをしていただきまして、そんな意見交換ができる場を学校のPTAの皆さんにも入ってもらったりして。そういうことが一番有効的に活用できる手立てになるかなと思います。ありがとうございました。

時間もありますので、ここで第5次総については一旦ここで閉めますけれども、これからの「地域の魅力とその活かし方」等の中で立ち戻ってご意見ありましたら、ご発言いただいてもかまいませんのでお願いいたします。それでは「地域の魅力とその活かし方」についての資料にピックアップさせていただきました。もちろんこればかりでなくて、沢山あるかと思えますけれども、その資料についての説明をセンター長からいたします。

泉野地区コミュニティセンター所長：「地域の魅力とその活かし方」ということで、地域の資源ということで5つほど挙げさせていただきました。まず1番の「槻木の廻り舞台」、これは今日の懇談会の最初から話も出ているように「秋の会」ということで先週、廻り舞台ということで小学校・中学校・保育園、地元の方、地域以外の今では珍しい青年団の方にも来ていただきまして、江戸時代中期から行われていた柳川劇団ということで昭和30年後半までやられていた地元の劇団と一緒に発表させていただきました。こちらにつきましては他の3番、4番と同じように地区外の住居の方、Iターンの方の移住の関係時に「地域の魅力」ということでよく使われてきている所でございます。2番の「電線が1本もない里山の風景」ということで、大日影区の南側の所として、ここについては全く電線も1本もない所で、これから大日影区の方では桜の植樹を計画しているということで、ここも憩いの場として考えているところです。ここ

に限らず泉野地区におきましては到る所で北アルプス・中央アルプス・南アルプスと3アルプスが見えるというような景色の良い場所がございます。もちろん八ヶ岳も全部見えるということで風光明媚な所も地域の魅力だと思っております。3番目の「穴倉」ですけれども、こちらは元々泉野の槻木の方で冬場のわら細工や機織り等をやっていた所でございますが、今ではこちらの方平成21年頃に焼失して無くなってしまったのですが、同じ年に再建をしていただきまして、今年も茅の屋根の方が傷んできているということで地域を挙げて屋根を改修して今後も使っていくと。ここも槻木の廻り舞台と同じように地域のコミュニケーションの場、世代の交流のコミュニケーションの場、伝統技術の継承の場ということで、これも地域の財産かなと思っております。同じくすぐ近くに水車小屋が平成20年ぐらいに再建され、それまで全然使えなくなった小屋があったんですけど、隣の水路の改修のときに同じく改修しまして、穴倉で使うわら細工のわらを使うようになっております。これも泉野だけではなくて市内の中でも大変珍しい施設ですので、泉野の資源だと思います。あと皆さんあまりよく分かってないと思うんですけど、中道の神明宮のサワラですね。こちらの方も市内で一番大きいサワラということで、これも地域の資源だと思っております。ここには書いてないんですけど私自身が一番泉野地区の魅力というのは、泉野小学校を中心として「泉野、ここはちょっといかんよ」というときに、みんながすぐ集まって皆さんで解決する。特に小学校の「泉野小学校応援隊」とかコミュニティ運営協議会と言われる前からある「ふるさとづくり推進協議会」自体は「泉野をどうにかしていかなきゃいかん、泉野の困ったことをみんなでやろう」という精神があって生まれてきたものだと思っておりますので、こういうことが泉野の魅力だと思っております。

市長：泉野の魅力の一旦を報告していただきました。このほかにもたくさんあろうかと思えます。こういったものをさらに磨いて、良い意味で発信していくことが大事かと思えます。市としても魅力の発信に、特にこの近年どんなことができるかと取り組んでおりまして、「シティプロモーション」という取組を今日来ている地域戦略課を中心にやっております。もちろんハードばかりでなくソフトで茅野市が取り組んでいく様々な子育て支援策だったり、先ほどの精神的な教育であったり、これも茅野市の魅力かなと思っております。それ以上に地域の魅力というのもすごく大事でして、その集まりが茅野市の魅力になるわけですし、これからはもっと良い意味で自信と誇りを持って積極的に泉野の魅力発信していくことが大事かなと、是非一緒にやっていきたいと思えます。一つは冒頭にも言いましたが「槻木の廻り舞台」、それだけではなくてそこを活用した活動というものが大きな魅力だと思っております。そういったことに市も物心ともに支援してまいりたいと思えます。さっきの会のときに、元気づくり支援金がここで終わるから次を、という投げかけもいただきましたけど、市としても積極的にご支援させていただきたいと思っておりますので、さらに輪を広げていければと思います。そんなことも一つということで、「他にもこんな魅力があるから、こんな活用したらどうか」そんなことを是非お聞きしたいので、ご発言をお願いいたします。

泉野地区コミュニティ運営協議会会長：先日ラジオを聞いてましたら、SBCラジオで信州なんとか探検隊という放送がありまして、その時に槻木の廻り舞台に八ヶ岳泉龍太鼓が絡んで、そのツアーを組んだという放送がされたんですよ。それが「秋の会」のちょっと前だったものですから、地域福祉の方に聞いたんですけど、あれは市でやったんじゃないかという話があって。それで非常に好評だったと聞いて、その辺は市でやってもらったのか分かりましたら教えていただければと。

市民：茅野市観光まちづくり協力隊がありますよね。実は9月30日にその方が事前に来まして、是非泉野でモニターツアーをやりたいということで、先ほど話が出ましたが泉龍太鼓さんに外国の方も来ましたかね、3名ほど来ましたが泉龍太鼓をここで練習しまして、そして穴倉・水車小屋、そこは責任者の方が案内をしまして、そして私もお迎えに来て槻木の素晴らしい町なかを案内して、廻り舞台を案内したわけです。その中で私が非常に感じたのは我々が気がつかないことを外国の方は素晴らしいと言うんですね。それから廻り舞台から守屋山が見えて、「あの山は何ですか？」とか。またあの日は素晴らしい天気で八ヶ岳が素晴らしかったんですよ。たまたま槻木の廻り舞台の第3回をやるときにその話が出まして、私もそんな中に入ったんですが、そこで反省会を開きました。我々が気がつかないことが魅力になっている、そういうことがあることは素晴らしい。ただし言われているのが、何とかここへ観光客を呼んで地域にお金が落ちるようにしたいということをしていました。ただあの方達は3年契約だそうですね。その方達にそこまでやってもらえるかどうか、そこまで実際に泉野が観光で収益が上がるかどうか疑問なところです。

市長：協力隊の皆さんは今13人いますけど、国の方から3年間給料が出ています。その3年間のうちにその先の働き方を見つけるということで来ています。ですから3年で帰られる方もいますし、3年間の中でここで仕事を立ち上げるということで残られる方もいます。茅野の場合は是非残ってやっていただきたいなということで、それぞれ得意な分野で活動していますが、基本的にはそういう枠組みです。ですから3年間しかいない、ということではなくて3年間の人件費は国の方からお金がもらえる。その間にいろんな取組をして次へのステップとしていく、そんな仕組みですのでそれはご理解いただきたいと思います。それから、まさにそんなんです。案内をして例えば、モニターツアーということでどういう仕組みにすれば実際にお金を落としてもらえるか。例えばガイドをやると当然ガイドするお金が入る。その中で、野菜や花を買ってもらう。そこで農家のおばちゃんにもお金が落ちる。また農家民泊ということも試行錯誤しています。実際にそこに泊まっただけなら当然そこにも落ちる。ただ単に見てもらっただけでなくて、ちゃんとお金を落としてもらえる。それにはそれなりのきちんとした対応をしなければいけませんけど、そういったことで何ができるかのテストをしているところでございます。その一貫でございまして、ただそう簡単にはいかない部分もありますので、試行錯誤するなかで商品として作っていきたい。その商品を売るのが今立ち上げをしていますDMO

という組織で募集をしたり、それを地域と連携する中で実際のツアーとして商品化をしていければとそんなことを考えていまして、今いろんな所で仕掛けをしています。笹原とそこでの野菜だとか。また柏原でもいろんなことをしていますし、金沢地区も宿場町なので面白いものがある、そこがそういった形にならないだろうかと。いろんなところで試行錯誤していますので、その一貫でございます。

市民：早速ですね、子供を3人、2月が3月に預かってくれないかと話が来まして。先ほど案内すれば金が入ると言っていますが、区長さんが打ち合わせの中で「そうは言ってもお金はくれるんだろうね」と聞きましたら、たくさんいただきました。何日も出たにも関わらず1500円いただきました。非常にありがたかったです。

市長：ありがとうございます。そういったことも含めていろんなことをやっていきたい、それが一つの観光を切り口としたまちづくりの取組でございますので、よろしく願いいたします。

ここに槻木の廻り舞台がありますけど、この間も保育園の小朋友们が披露したらすごいおひねりが出たじゃないですか。あの保育園の人達に投げ込まれたおひねりは保育園の小朋友们で？

市民：それは各舞台ごとに保育園に投げられたものは保育園に、小学生が出たものには小学生に、大人が出たものについては大人に、という仕組みでございます。

市長：お菓子なんかは分かるんだけど、お金は保育園の小朋友们はどうするのかなと思いつつ見えています。でも何かやって稼ぐというほどではないですけど、そういうことも大事かなと思います。これから生きていく中で何かやって、きちんとしたことをやると対価が貰えるということも自然と教えていくと言いますか、そんなことを思いました。

市民：そうですね、トータルの金額は分かりませんが。

市長：どうぞ、他の皆さんからもご意見を。恥ずかしいと思わずに。

先程河原の湯の上の公園の話がありましたけれども、是非その場所だけではなくて例えば槻木の舞台を真ん中に据えて、それに関連してどういう整備をしていけば、より泉野の魅力が出るか、是非そういう視点で取り組んでもらえれば更に深みが出ると感じています。

市民：今、そういった形でお金を落としてもらえようと話がありますが、自分は会社員ですけど副業が駄目と言われていまして、そういった形で副業できるように企業の方に話をさせていただくことはできるのでしょうか。

市長：今お勤めになっている会社で副業が駄目だということで、一元化で私の方で答えられないですけど。

市民：是非茅野市の会社にはそういった形でそれを教える人にはどんどん稼いでもらえると良いかなと。

企画部長：観光まちづくりの中で市の皆さんに関わっていただくということですから、広報といったことで周知をしてご理解いただくと。会社の方は市長の話もありましたけど、就労規則もありますのでいろんな状態があると思います。例えば大きなところでしたら一般的な会社としまして兼業の部分になりますので、観光まちづくりの部分ももしかするとボランティア的に出ていただいて謝礼として貰うということでしたら、その点には当たらないと思います。形態によって違うと思います。本格的に会社を休んでこれやっていくとなるとそれは言われるかもしれませんが。いずれにせよ茅野市が観光でまちづくりを進めていくということは広報して、市内の企業にはご理解いただきたいなと思います。

市長：やはりまちづくりをしていくという観点でどう行動できるかは、行政からお願いするとしてもそういう視点には成らざるを得ないかなと思います。他にどうぞ。

無いですか？大日影区の桜の植樹というのがありますけど、どんな構想かお分かりになりますか？

市民：大日影区の下の沢という所なんですけど、電柱の無い所がだいたい2キロぐらいの長さがあるんですよ。今計画しているのが5年ぐらいかけて500メートルぐらいの所に上手に桜の木を植えていこうと。桜の木は大きくなるので管理できなくなるといけないので、若い人達がどのぐらいできるか相談しながら。ただ幸いここへきて随分移住者の方がいらっしゃるので、その移住者の方の平均年齢がだいたい37・8才なんですよね。そういう人達にも声を掛けて村の自然を守っていききたい、ということで計画を立てております。

市長：ありがとうございます。やはり地域の人達、移住者の人達を巻き込んで一緒に整備していくというのが大事な事かなと思います。是非頑張ってくださいと思いますし、市としても応援できることがあればしていきたいなと思います。ここは桜ですけども金沢では、ご存じの方もいるかと思いますが「梅プロジェクト」ということで金沢を梅の里にしようということで今年からスタートしています。きっかけは私の方で言ったんですけど、金沢小学校の校章が梅なんですよね。「なんで金沢小学校の校章は梅なの？」と聞いたら、昔甲州街道が梅街道で梅の里だったということでした。今はほとんど無いという中で「せつかく小学校の校章が梅でそういう歴史があるならもう一回梅を復活したらどうよ」と5年ぐらい言い続けました。ようやく運営協議会を中心にメンバーが集まって、まずは金沢公園から始めましたけれども、

是非将来的には金沢に行けば、春は「梅の里」となれば楽しくなるのかなと思いますし、梅でするのでそこでできた梅を食べたり梅酒を作ったり、そういったことにもなれば面白いかなという夢もございます。是非泉野地区においても廻り舞台から展開していただければ、子供達もより泉野が好きになってくれるのではと願っております。

それでは地域の課題ということで、先程教員住宅の話、公園のリニューアルの話が出ましたけれども、他にもいろんな課題があろうかと思えます。普段気付いている課題等につきましてご質問、ご意見等ございましたらどうぞ。

市民：市長にお伺いしたいのですが、市長は区の行政、例えば市長と区長を兼務してできるとお思いでしょうか。

市長：市長と区長は兼務できないと思っています。

市民：実はこの小屋場という区は非常に人数も少ない区なんですけど、私が考えるに市の人事について一般市民の私がこんなことを言うのも何なんですけど、区長を決めるのは平成27年12月に決めているわけです。その次の年（平成28年）見習い区長ということで1年区の行政等を見て、そして今年平成29年行政連絡事務委託というようことを市から受けまして上番をして、もう間もなく終わろうとしていますけど、私が一番びっくりしたのが3月10日の長野日報に人事案を新聞で見たときに、今泉野コミュニティ所長としている立木君、実は区長なんですよね。私はその時から本当にびっくりしてしまって、何これ？と思ったわけです。そのことが今だに頭にあって、今年は本当に「区長」というより「苦長」というような加減で過ごして参りました。やはりいろんなことがある中で、市の方には相当な人材がいっぱいいる訳ですよ。1年ぐらい待っていても良いじゃないかと私は思って今現在至っているわけですが、お考えをお聞きしたい。

市長：市の職員でそれなりの役職をやりながら区長をされている方は結構います。今この中でもいますし、かなりいます。現在も何名かいますので、そういう中での現状をご理解いただきたいと思います。確かにそういうのが分かっていたら1年待ったりということもできなくはないと思います。ただご本人の考え方もありますし、切実な話になりますけども階段を上がっていきます。その中でそのタイミングを逃してしまうと、具体的にはここで課長職・係長職になるというときに待ってくれとなると、出世ということがずれていってしまう、ということもあるかと思えます。最終的にはご本人のことですし、そういう状況も考慮しなくてはいけないとは思いますが、そんな状況で人事とも考えて異動が出ています。

市民：本人がこれから課長・部長とどんどん上がっていくということで期待をさせていただくということで、それは結果として出ると思えますので見ていきたいと思えますが、しかし例え

ば防災とかいろんなことを加味したときに、市の中でもコミュニティ所長というのは村長さんと言われているぐらい重要な任務なわけです。市長にはいっぱい支えてくれる人達がいるのだけれど、コミュニティの所長というのは、どちらかというと使われることが多くて大変だから言っているわけです。その辺を一つ申し訳ないですけど、今後考えていただいた人事、人事というのは他人ごとだから仕方ないと思いますけど、そこら辺を加味していただければ区としてはそんな人をわざわざ区長には推薦しないし、選挙で一言言ってもらえれば。私もここで2回目なんですけど1回目のときには一般の会社で勤めながらやったときに、苦しい嫌な思いをしております。その辺市役所の人は幸せだなと、本当に守られているんだなとこんなふうに考えます。よろしくをお願いします。

市長：ありがとうございます。様々な消防の役等もありがとうございます。そういったことも最大限加味する中で物事を進めていきたいと思っておりますけれども、なかなか100%それに懸かることもできない場合もあるかなと思っております。わかりました、ありがとうございます。他にどうぞ。

市民：今のに関連して、所長に民間人を登用という形も出てきますね。それは今後全コミュニティの所長が全部民間人になるのか、市の職員がそのままずっとやっていただけるのか、その辺をお伺いしたいです。特に特異なところ、いろいろと所長は大変です。そういった中ではきちんとやってもらえる所長ではないと困りますので、その辺を考えて人事もやっていただいて、今後どうしていくのか教えてください。

市長：今のところ所長を民間人とする予定はございません。今年から定年退職して再任用でついているのが、豊平と米沢と金沢の3地区でございますけど、全くの民間人でとは現時点では考えておりません。過去にそういうことも必要ではないかということで、豊平で試そうと思ったことがありますけれども、考え方がいろいろありまして、それでは絶対駄目だと。やはり市の職員にきちんとやってもらわないと信頼関係が築けないという意見もありましたし、片や民間と言っても例えば泉野なら泉野の皆さんでやってよと。本当に地区のことをよく知っていて、いろんなコネクションもあるしという意見もありました。それぞれメリット・デメリットがありましたけど、その時思ったのが例えば2人か3人所長がいて、それをサポートしてくれる泉野地区の方に職員を付けるとか、それは試してみたいなとは思っています。それはできるかなと思っておりますけど、当面コミュニティのセンター長は市の職員をおいていきたいと思っております。確かにコミュニティにも特徴がありますので、泉野さんの場合はほとんどの事務局をセンター長が持っているんじゃないかな。だから余計に大変というのは前から存じています。そこら辺もどういうふうに良い意味で整備をしていけるかということも、これから必要になってくるかと感じています。これからもいろんな議論をしていただきたいと思います。

市民：ありがとうございました。

市長：他にどうぞ。

市民：防災の関係で2点。一つは願になるのですが、広報ちので例えば「大雨警報が出ました」とか、このエリアで茅野市が一番そういう情報の提供が無いです。是非、そういう警報レベルのものが出たときに早く広報ちのとかで周知をするような活動を取っていただきたいと思います。LCVの関係であちこちの情報に広報〜と出てくるのですが、岡谷・下諏訪は大雨や火が出たとかとすぐに上がってくるんですけど、茅野市はなかなか出てこないですね。そういった観点で広報をお願いしたいと思います。もう一つ防災の関係でお伺いしたいのですが、茅野市は別荘地とかがあって、住民登録されていない人達が夏場はよく人口が増えていると思いますが、そういう時期に震災等の大規模の災害が起きて避難しなくてはいけない時に、どうお考えなんですか。実際に若葉台も別荘に使っているお家が結構あって、何人いるのか、来ているのかすら分からない。そういう方達を避難所に誘導してきて、例えば3日間ぐらい食糧を与えなくてはいけないときに、住民票以上の人数になると思うのですがその辺りいかがお考えか伺いたいです。

市長：1点目の広報になかなか出ないというのは、早急に広報でも上がる取組をしていきたいと思っています。それと土砂災害警戒情報が出ます。これが茅野市の場合難しくて、だいぶ精度が高まってきましたけど、今の降り方って非常に局地的じゃないですか。泉野が凄い降っていても山田辺りまで行くと何にもないという状況が茅野には結構あります。そうするとポイントを絞って出さないと、茅野市全域に土砂災害警戒情報ってテレビとかで出るのは「茅野市」で出ますけど、それをストレートに流しますと本当におかしなことになりますので、そこをどういうふうにやっていくか防災課とも今はより精度の高い仕組みができていますので検討はしています。いずれにしても速やかに情報を流す件には取り組んでいきたいと思っています。それから別荘地もそうですし観光地もそうなんです。特に災害が起きたらどうするかは茅野市には大きな課題でして、まず別荘地につきましては漸くそうした意識も高くなってきて、基本的に別荘地はデベロッパーさんが管轄するようになっていきます。そういう中で、防災行政無線も「せっかく静かにここに来て避暑をしているんだから、一切防災無線なんてしないでくれ」ということでしたけれども、去年辺りから普段行方不明になったとかは流しませんけど、災害情報は外の防災行政無線で流せるように、まだ100%ではないですけども取り組んでいます。そういう中でだいぶ別荘地の住民の意識も変わってきたなと思います。一番のきっかけは平成26年に東急でかなり大きな土砂崩落があった、あれ以降ガラリと変わりましたね。基本的にはデベロッパーが一応中心になって対応することになっています。ただ別荘じゃなくても普段居なくてというお宅もあるかと思っています。これが非常に難しく、その地域でないと実情をつかめないかなと思います。普段区にも入っていない、だけど夏場別荘代わりに来ているというときに災害になったという時に、だからと言って避難を断るわけにもいきませんよね。そうなったらそ

こで人としての対応をしていただくことになるかと思えます。それが長引くときは、それなりに市の方の避難所もごございますので、そちらに移動してもらうとかにならざるを得ないと思います。そういう意味でも自主防災組織、その中で普段住んでいないけど防災という観点では、「うちは夏場は4名ぐらい来ていますよ」みたいな情報を提供してもらえるような、自主防災組織の取組をまめに進めていきたいなと思えます。

市民：ありがとうございました。

市長：他にございますか。

市民：もう一つお聞きしたいのですが、林の整備に関する件なんです。非常に里山が荒れてきて自分の林も分からない、隣の林も分からないということで、非常に荒れている所があるんです。そういった所の整備ですが、例えば私達は森林税を払っている訳ですが、その辺の整備をお願いできるのか、また指定するのに良い方法はあるのかということをお教えいただきたいです。

市長：本当に里山ほどこと言わず境界が分からない、土地を持っている人もこっちに住んでいないとかで非常に苦労しています。今までは1ヘクタールとかという範囲がまとまらないと手が入らない、補助金が出ないということでしたけれども、ここで緩和されまして、0.1ヘクタールぐらいでもできるということになってきそうです。今、長野県でも森林税は継続の方向でいこうと思えますけれども、使いやすい取組にしていこうということで県の方も取り組んでおりますので、前よりは各段にそういった所にも手は入る、補助金が入るという格好になるかと思えます。また林務課の方にも確認しておきますし、是非また直接「こういう状況だけど、何か良い使い勝手は無いか」と聞いていただければと思えますし、また平成31年を目途に国の方の森林税もスタートするということになれば、これもまた今まで以上に使いやすくなるかと思えます。よろしく願いいたします。

市民：こちらこそよろしくお願いいたします。それに付随して賦課金というものがあるんですが、その賦課金を払うのに振込用紙で八十二銀行に振り込んでくださいということで、私はまだ任務ですので行ったら手数料と言われたんですよね。手数料を払うということは森林組合の方でも100%お金を使えないということなので、お願いなんですけどコミュニティの方で預かりという取扱いはしていただけないのでしょうか。

市長：そうですね。森林組合の賦課金となると、基本的に森林組合は民間組織なんですよね。それをできなくはないのかもしれませんが、コミュニティでとストレートにはできないんじゃないかなと思います。森林組合との現状を確認してみたいと思います。そうすると所長の仕

事が増えますしね。基本的には市の公金を扱うことになるかと思しますので。

他によろしいでしょうか。若干時間が早いようですがご発言ございませんので、今年のみち懇はこれで閉めさせていただきます。本当に今日もいろんなご意見をいただきました。先ほども言いましたように地域の魅力をどう出せるかは大きな武器になるかと思えます。皆さんの共に知恵を出し合って、「やさしさ」と「活力」のあるまちづくりに取り組んでまいりますのでよろしくお願いいたします。今日はありがとうございました。

企画部長：本日は大変ありがとうございました。それではこれでまちづくり懇談会を閉じさせていただきます。今日は雨が降っておりますので、お気をつけてお帰りください。本日はありがとうございました。